

高円宮賜杯 第42回 全日本学童軟式野球大会 マクドナルド・トーナメントに係る
新型コロナウイルス感染予防対策ガイドライン【来賓・報道・視察員関係】

《全日本軟式野球連盟の方針》

- ・軟式野球の活動によって、「クラスター発生・感染拡大を起こさない・誹謗中傷を生み出さないこと」が重要です。
- ・大会に関わる全ての方々が、安全・安心に大会に参加できるように「感染していない者」が参加することが前提であることをご理解ください。
- ・軽微な症状でもウイルスを保持し、他者へ感染させる可能性があるため、軽い感冒(風邪)の症状がある場合や体調がおかしいと感じたら「積極的に休むこと」を徹底すること。
- ・夏季は、熱中症にも注意すること。

熱中症と風邪の症状、新型コロナウイルス感染症の初期症状は似ており、かつ若年者の場合にはより症状に乏しいことから、見分けることは困難である。また、感染力の強い変異株(α株・δ株・o株)の出現により、これまで感染しなかった場面や世代間での感染報告が増加している。従って、体調がおかしいと感じたら「積極的に休むこと、休ませること」を徹底すること。

また、判断に迷った場合は、病院を受診するか「東京都発熱等受診相談センター」に問い合わせること。

■東京都発熱等受診相談センター

- ・東京都発熱相談センター(看護師、保健師が対応) [TEL:03-6258-5780](tel:03-6258-5780)・[03-5320-4592](tel:03-5320-4592)
 - ・東京都発熱相談センター(医療機関案内専門) TEL:03-6630-3710
- ※混雑により電話がつながりにくい場合もある。

- ・大会参加者は「接触確認アプリ(COCoA)の活用を推奨する。
- ・選手やチーム関係者、大会関係者の安全に配慮し、来賓者および報道関係者自身の感染予防対策のためにも、本紙ガイドラインを遵守してください。
- ・緊急事態宣言地域(政府からの発令)から移動する場合は、開催地に入る1週間以内のPCR検査結果が陰性と認められた者のみ参加できることとする。

《1. 共通感染予防対策》

※新型コロナウイルスワクチンの接種の有無に関わらず、全ての競技者・関係者が継続的に行うことが望ましい。

①毎日の健康チェックと行動記録

- ・体温測定：起床直後、球場への上場前等決まった時間での体温記録。(必須)
- ・行動記録：倦怠感、咳、咽頭痛、食欲低下の有無、睡眠時間等のチェック、食事や出向いた場所・同行者記録や人混みに入る等の感染リスクが高い状況が生じた場合を詳しく記録。(提出は適宜)

※体温が 37.5 度以上及び発熱症状がある場合、倦怠感、咳、咽頭痛、味覚・嗅覚異常、息苦しさ(呼吸困難)、などの体調不良が見られる場合は、勇気を持って休む。同居者に上記症状等がある場合も同様。

②マスクの着用 **※不織布マスクを推奨**

- ・ 常時マスクの着用。ただし、熱中症に注意し適宜外してもよい。
- ・ 日常的にマスクを着用し、移動中の着用にも努めること。
- ・ マスクを外さざるを得ない場合には、ソーシャルディスタンス(2m)が保たれていない状況下での会話・声掛け・大声は控える。

③手指消毒の励行

- ・ こまめな手洗いと手指消毒を行うこと。

④人混みを避ける

- ・ 3密(密閉空間、密集場所、密接場面)の回避。
- ・ 人混みにやむを得ず入る場合は、正しくマスクを着用すること。
- ・ 不要不急の外出は控える。
- ・ 食事は、なるべく普段一緒にいる人や少人数・短時間で行うこと。
マスク会食や黙食を推奨する。
- ・ 日常生活の場面でも、ソーシャルディスタンス(人との距離を 2m、最低 1m)を確保するように留意する。
- ・ 「新しい日常」「新しい生活様式」に適応し、飲食については、周囲の人となるべく距離を取って対面を避け、会話は控えめにすること。また、同じトング等での大皿での取り分けや回し飲みは避け、大人数での打ち上げは控える。
また、各地域の行政から示される感染対策を遵守すること。

《来賓・視察員関係者の感染予防対策》

選手・チーム関係者との接触・会話等は極力、お控えください。

(1) 自宅・宿泊施設について

- ①起床後と自宅または宿泊施設出発前に検温を実施し、その他の場面でも体調不良者が出た場合には、すぐに検温・体調不良の詳細について情報収集を行う。
- ②検温により、37.5℃以上の発熱者、または新型コロナウイルス感染症を疑う症状を有する者は、チームに帯同させず(他者と交わらないよう)一時的に隔離し、「発熱等受診相談センター」に連絡し今後の対応を相談すること。なお、病院での診察を受けるもしくはPCR検査を受検する場合は、大会本部に報告すること。
- ③宿舎では、原則一人部屋を推奨する。但し、複数人での宿泊の場合には、最低限の

人数とし、部屋内でのマスク着用などの飛沫対策、手指衛生などの接触感染予防対策に努めること。

- ④宿泊施設は、感染予防対策を十分に行っている施設を選定する。
- ⑤食事の際には、隣同士の距離を空けて十分な距離を保つことを心がける。
- ⑥原則、食事はビュッフェ形式を避けること。ただし、宿泊施設の都合によりビュッフェ形式の場合は、宿泊施設内の感染予防に従い飛沫・接触感染対策を遵守すること。
- ⑦各自の部屋に集まっでの飲食は避け、マスク非着用下で大勢が集まり懇談することがないように注意すること。
- ⑧不要な外出は行わず、やむを得ず外出する場合は、マスクを着用し感染リスクの高まる行動はとらないこと。
- ⑨宿泊施設内の共有部分(ロビー、廊下、エレベーター等)では、マスクを着用すること。
- ⑩外部との接触(面会・会食)は控える。
- ⑪参加後に1週間以内に新型コロナウイルスに感染した場合は、速やかに大会本部に連絡すること。

(2)移動について

- ①移動中は、マスクの着用と手指消毒を徹底する。
宿泊施設から球場間の移動については、車内の換気を十分に行うこと。
- ②公共交通機関を利用する場合は、混みあう時間帯をなるべく避ける。

(3)会場到着後について

- ①「健康チェックシート(来賓・報道関係者用)」を試合当日、大会本部に提出する。
健康チェックシートにおいて、体温が37.5℃以上あった者は球場への入場を禁止する。その場合、自宅または宿泊施設に当該者は戻ること。戻の際は、原則公共交通機関は使用しないこと。
また、同チェックシートの質問に「有」とチェックがあった者の球場への入場可否については、大会主催者が協議して判断する。
- ②球場入口にて検温を行い、37.5℃以上あった場合は球場への入場を禁止する。
※球場入口での検温時に、発熱が発覚した場合は、原則公共交通機関以外の手段で宿泊施設または自宅に戻るか、病院を(必ず受診前に医療機関に応需の可否を電話で確認した上で)受診すること。なお、移動の際は、他者と接触しないように配慮すること。
- ③球場入口にて手指消毒を行い入場する。
- ④球場内は、飲食時以外はマスク着用とする。

《報道関係者の感染予防対策》

上記の共通感染予防対策を実施すること。

取材以外での選手・チーム関係者との接触・会話等は控えること。

感染予防対策(マスク着用、手指消毒、ソーシャルディスタンス等)を十分に行い取材を行うこと。

取材後、1週間以内に新型コロナウイルスに感染した場合は、速やかに大会本部に連絡すること。

(1) 自宅・宿泊施設について

- ①起床後と自宅または宿泊施設出発前に検温を実施し、その他の場面でも体調不良者が出た場合には、すぐに検温・体調不良の詳細について情報収集を行う。
- ②検温により、37.5℃以上の発熱者、または新型コロナウイルス感染症を疑う症状を有する者は、チームに帯同させず(他者と交わらないよう)一時的に隔離し、「受診・相談センター」に連絡し今後の対応を相談すること。なお、病院での診察を受けるもしくはPCR検査を受検する場合は、大会本部に報告すること。
- ③宿舎では、原則一人部屋を推奨する。複数人での宿泊の場合には、最低限の人数とし部屋内でのマスク着用などの飛沫対策、手指衛生などの接触感染予防対策に努めること。
- ④宿泊施設は、感染予防対策を十分に行っている施設を選定する。
- ⑤食事の際には、隣同士の距離を空けて十分な距離を保つことを心がける。
- ⑥原則、食事はビュッフェ形式を避けること。ただし、宿泊施設の都合によりビュッフェ形式の場合は、宿泊施設内の感染予防対策に従い飛沫・接触感染対策を遵守すること。
- ⑦各自の部屋に集まっての飲食は避け、マスク非着用下で大勢が集まり懇談することがないように注意すること。
- ⑧不要な外出は行わず、やむを得ず外出する場合は、マスクを着用し感染リスクの高まる行動はとらないこと。
- ⑨宿泊施設内の共有部分(ロビー、廊下、エレベーター等)では、マスクを着用すること。
- ⑩外部との接触(面会・会食)は控える。
- ⑪参加後に1週間以内に新型コロナウイルスに感染した場合は、速やかに大会本部に連絡すること。

(2) 移動について

- ①移動中は、マスクの着用と手指消毒を徹底する。
宿泊施設から球場間の移動については、車内の換気を十分に行うこと。
- ②公共交通機関を利用する場合は、混みあう時間帯をなるべく避ける。

(3)会場到着後について

- ①「健康チェックシート(来賓・報道関係者用)」を試合当日、大会本部に提出する。
健康チェックシートにおいて、体温が37.5℃以上あった者は球場への入場を禁止する。その場合、自宅または宿泊施設に当該者は戻ること。戻る際は、原則公共交通機関は使用しないこと。
また、同チェックシートの質問に「有」とチェックがあった者の球場への入場可否については、大会主催者が協議して判断する。
- ②球場入口にて検温を行い、37.5℃以上あった場合は球場への入場を禁止する。
※球場入口での検温時に、発熱が発覚した場合は、原則公共交通機関以外の手段で宿泊施設または自宅に戻るか、病院を(必ず受診前に医療機関に応需の可否を電話で確認した上で)受診すること。なお、移動の際は、他者と接触しないように配慮すること。
- ③球場入口にて手指消毒を行い入場する。
- ④球場内は、飲食時以外はマスク着用とする。
- ⑤記者席または報道陣用控室(設置されている場合)においては、定期的に換気する。
座席は間隔を空け、安全な距離を確保する。(2m～最低1m)

(4)取材時について

- ①原則、取材は室内ではなく屋外で且つ気候に配慮した場所で行うこと。
- ②取材の際は、必ずマスク着用で2m～1mの距離を確保すること。
- ③複数人をまとめて取材する場合は、密にならないように安全な距離をそれぞれ確保すること。
- ④各社、取材後にチーム名と取材対象の氏名、取材方法(電話・対面・オンライン等)を大会本部に報告すること。※報告様式は別紙。
- ⑤複数の記者やカメラマンが選手やチーム関係者に密集しないように配慮すること。
- ⑥記者ならびにカメラマンは、所属が判別できるように、ビブスや腕章、IDカードを常時着用すること。

以上